

家庭礼拝ガイド 365 日－11月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
11/1	ヨハネ 19:28～30	ヨハネ 19:30	すべて完了した
11/2	ルカ 23:50～55	ルカ 23:53	イエスさまの埋葬
11/3	マタイ 28:1～15	マタイ 28:6	イエスさまの復活
11/4	ルカ 24:13～35	ルカ 24:32	エマオの途上で
11/5	ヨハネ 20:19～29	ヨハネ 20:29	見ずに信じる者は幸いです
11/6	ヨハネ 21:15～19	ヨハネ 21:17	あなたはわたしを愛しますか
11/7	マルコ 16:15	マルコ 16:15	全世界に出て行き福音を宣べ伝える
11/8	マタイ 28:20	マタイ 28:20	世の終わりまでともに
11/9	使徒 1:3～11	使徒 1:11	イエスさまの昇天
11/10	使徒 1:8	使徒 1:8	わたしの証人
11/11	使徒 2:1～4	使徒 2:4	ペンテコステの日
11/12	使徒 2:43～47	使徒 2:46, 47	初代教会の姿
11/13	使徒 3:1～10	使徒 3:6	私にあるもの
11/14	使徒 4:19, 20	使徒 4:19, 20	誰に聞き従うのが正しいか
11/15	使徒 5:1～11	使徒 5:4	アナニヤとサツピラ
11/16	使徒 6:1～7	使徒 6:3	執事の選出
11/17	使徒 7:54～8:7	使徒 7:60	最初の殉教者
11/18	使徒 9:1～20	使徒 9:5	パウロの回心
11/19	使徒 9:36～42	使徒 9:36	ヨッパのタビタ
11/20	使徒 13:1～3	使徒 13:3	教会による派遣
11/21	使徒 14:8～18	使徒 14:15	ルステラ宣教
11/22	使徒 16:6～15	使徒 16:9	マケドニアの叫び
11/23	使徒 16:16～34	使徒 16:31	家族の救い
11/24	使徒 17:16～34	使徒 17:30	知らずに拝んでいるもの
11/25	使徒 18:1～4, 24～27	使徒 18:26	アクラとプリスキラ
11/26	使徒 18:5～11	使徒 18:9, 10	恐れなくて語り続けなさい
11/27	使徒 23:11～24, 25:6～12	使徒 23:11	ローマへの導き
11/28	使徒 27:21～36	使徒 27:25	元気を出しなさい
11/29	ローマ 1:20	ローマ 1:20	被造物によって認められる神の本性
11/30	ローマ 3:10, 23～24	ローマ 3:24	神の恵み

11月1日

テーマ：「すべて完了した」

聖書箇所：ヨハネの福音書19章28節～30節

◆今日のみことば

イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した」と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。ヨハネの福音書19章30節

◆メッセージ

あなたのために、身代わりになって死んでくださる方がいたら、あなたは どう 思いますか。うれしいですね。そんなお方がイエスさまです。

イエスさまは十字架につけられていました。そして、すべてが終わったのを知って「わたしは 渴く」と言われました。それは、旧約聖書に書いてあることばがそのとおりになるように、酸っぱいぶどう酒を飲むためでした。十字架のそばにいた兵士たちは、イエスさまにそのぶどう酒を飲ませるため、木の棒につけたスポンジにぶどう酒を含ませて、イエスさまの口もとに差し出しました。イエスさまは酸っぱいぶどう酒をお飲みになると、大声で「完了した」と叫ばれました。それは、人が救われるために「何もかもなしとげた」という意味です。そして、お亡くなりになりました。



イエスさまは、私たち罪びとを救うために、この世に人となっておいでになりました。それは、私たちの罪をゆるすため、私たちに代わって十字架にかかって死んでくださるためでした。罪びとは、本当の神さまを信じていない人のことです。そのような罪びとを救うために、イエスさまは十字架の上ですべての働きをなしとげられたのです。だから、「完了した」と叫ばれたのです。

だから、信じるだけで救われます。私たち生まれながらの人は神さまが分からず、信じていません。ですから私たちはみな罪びとです。罪びとですから、罪を犯します。うそをついたり、意地悪をしたり、悪い言葉を口から出したりします。その罪を神さまに打ち明けて、イエスさまが私の罪のために十字架にかかって死んでくださったと信じる時、私たちは救われます。



あなたは、もう、イエスさまを信じてますか。まだならば、きょう、イエスさまを自分の救い主と信じませんか。そうすれば、あなたは救われて天国に入ります。

◆お祈り

「イエスさまが私の罪のために十字架にかかって死んでくださったことを感謝します。きょう、イエスさまを信じます。」

(浜松中央教会牧師 小川幸男)

11月2日

テーマ：「イエスさまの埋葬^{まいそう}」

聖書箇所：ルカの福音書^{ふくいんしょ}23章^{しょう}50節^{せつ}～55節^{せつ}

◆今日のみことば

それから、イエスを取り降ろして、亜麻布で包み、そして、まだだれをも葬^{ほうむ}ったことのない、岩に掘られた墓にイエスを納めた。ルカの福音書23章53節

◆メッセージ

お墓^{はか}ってなんだか暗くて怖い感じがしますね。お墓^{はか}は死体が埋葬^{まいそう}されています。日本のお墓^{はか}とユダヤのお墓^{はか}は違います。昔のユダヤのお墓^{はか}は、山肌に横穴^{むかし}を掘ったものでした。ユダヤ人は、先祖^{はか}（ユダヤ人は家族を大切にします）の墓^{はか}に葬^{ほうむ}られます。しかし、犯罪人^{はんざいにん}は、共同墓地^{きょうどうぼち}に葬^{ほうむ}られ、しかも極悪人^{ごくあくにん}は、鳥や犬の餌食^{えじき}となっていくます。イエスさまは、十字架^{じゅうじか}にかけられた犯罪人^{はんざいにん}。イエスさまの遺体^{いたい}（死体^{したい}のこと）は、どうなってしまうのでしょうか。



イエスさまを葬^{ほうむ}った人は、ヨセフというエルサレムの議員^{ぎいん}でした。議員^{ぎいん}だったので、イエスさまの遺体^{いたい}をひきとることができました。正しい人と書かれています。エルサレムの議員^{ぎいん}のおお多くは、イエスさまに反発^{はんぱつ}していました。しかし、ヨセフは人々^{ひと}に何を言われるかを恐れないで、行動しました。

イエスさまは、ヨセフの手によって「亜麻布で包まれ」「だれも葬^{ほうむ}ったことのない」新しい墓^{あたらしいはか}に入れられました。イエスさまは、丁寧に埋葬^{まいそう}され、神の子として神聖^{しんせい}にあつかわれたのでした。

お墓^{はか}は、大きな岩のような石で閉じられました。誰も開けてはいけない、とローマ皇帝の封印^{ふういん}がなされ、ローマの兵隊^{へいたい}が見張りにつきました。真っ暗なお墓^{はか}の中に、イエスさまの遺体^{いたい}だけ。この中から、イエスさまの復活^{ふっかつ}が起きました！神さまが語られたことは、必ず実現^{じつげん}します。



◆お祈り

「私たちの救い主^{すくぬし}は、苦しめましたが、最後^{さいご}は、神の子どもにふさわしく葬^{ほうむ}られました。それはイエスさまが、栄光ある神の子どもの証^{しやうこ}拠^こです。僕たち、私たちも、イエスさまに倣^{なら}うものとして歩^{あゆ}ませてください。」

（天竜キリスト福音教会牧師 面鼻）

11月3日

テーマ：「イエスさまの復活」

聖書箇所：マタイの福音書28章1節～15節

◆今日のみことば

ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらん下さい。マタイの福音書28章6節

◆メッセージ

おととい、イエスさまは十字架に付けられて死んでしまいました。お墓はどうしようと思っていたら、アリマタヤのヨセフさんが自分の墓に入れてくださった。それで、みんなでイエスさまの遺体に薬を塗って、真っ白い布でグルグル巻いてお墓の中に入れました。兵隊さんたちが大きな石を転がしてフタをしてお墓を見張っていました。

きょうは、日曜日です。イエスさまをお墓に入れて三日目になります。マリヤさんたちは、「もう一度、お墓に行って、イエスさまのお身体にきちんとお薬を



塗ってさしあげましょう。それにしても、イエスさまは死んでしまって淋しいわね。」と言いながら、朝早く家を出てお墓に向かいました。「でも、お墓には大きな石でフタがしてあって、それに兵隊さんたちが見張っているから…どうしましょう。困ったわね。」ところが、お墓のところに来ると、グラグラグラ…。

大きな地震が起こりました。見ると、石のフタが開いていてその上に、顔は稲妻のように輝き、雪のように真っ白い服を着

た神さまの御使いが座っていました。兵隊さんはあまりのことに倒れて、気絶してしまいました。マリヤさんたちも驚いて声も出ません。御使いはやさしく言いました。「恐がらなくていいですよ、皆さんは十字架の上でお亡くなりになったイエスさまをさがしているのでしょうか。でも、イエスさまは、ここにはおられませんよ。前から言っておられたように、よみがえられたからです。さあ、見てご覧下さい。」女たちは墓をのぞきこんで、「本当だ、イエスさまがいない。復活されたんだ」急いでお弟子さんたちに伝えに行きました。



僕たち私たちも「もうダメ、どうにもならない。」ということがあるかもしれませんね。でも、イエスさまは死に勝利され、復活されたお方です。このイエスさまのお名前でお祈りすると神さまから素晴らしい力が与えられます。だから、どんなときにも「もうダメ…」とがっかりせずに、お祈りしましょう。

◆お祈り

「愛する天の神さま。どんなにたいへんな時でも、イエスさまのお名前でお祈りして、神さまからの素晴らしい復活の力をいただけますように。」

(豊橋ホサナキリスト教会牧師 林明信)

11月4日

テーマ：「エマオの途上^{とじょう}で」

聖書箇所：ルカの福音書^{ふくいんしょ} 24章^{しょう} 13節^{せつ}～35節^{せつ}

◆今日のみことば

そこでふたりは話^{はな}しあ^あった。「道々^{みちみち}お話し^{はな}になっている間^{あいだ}も、聖書^{せいしょ}を説明^{せつめい}してくださ^さった間^{あいだ}も、私たちの心^{こころ}はうちに燃^もえていたではないか。」ルカの福音書^{ふくいんしょ} 24章^{しょう} 32節^{せつ}

◆メッセージ

イエスさまを信^{しん}じて、教会^{きょうかい}にも通^{かよ}っているのに、どうしてこんなことになるんだろう、とガッカリしたことはありますか？

このふたりの弟子^{でし}は、自分^{じぶん}たちが信^{しん}じていたイエスさまが死^しんでしまったことにおおきなショックを受けて、悲しみに沈^{しず}んでいました。イエスさまは、これから僕^{ぼく}たちのためにこんなことを、あんなことをしてくださるはずだったんじゃないのか、それなのに死^しんでしまった、と…そして、彼^{かれ}らは自分^{じぶん}たちがいるべき場所^{ばしょ}（エルサレム）から離^{はな}れて、間違^{まちが}った方向^{ほうこう}へ進^{すす}んでいる途^と中^{ちゅう}でした。すると！イエスさまの方^{ほう}から彼^{かれ}らに近^{ちか}づき話^{はな}しかけられました。でも、ふたりは自分^{じぶん}たちの失望^{しつぼう}、悲しみにばかり心^{こころ}を奪^{うば}われて、そばにいるイエスさまがわからなかったのです。

このふたりの弟子^{でし}の問題^{もんだい}は「イエスさまはこうしてくださるはずだった」と、自分^{じぶん}の期待^{きたい}や願^{ねが}いを叶^{かな}えてくれるイエスさま像^{ぞう}を持^もっていたことです。それが叶^{かな}わなくなったと思うと、信仰^{しんこう}の友^{とも}がいる場所^{ばしょ}から離^{はな}れて行^いきました。そして近^{ちか}くに来^きてくださったイエスさまにさえ気づかなかったのです。

僕^{ぼく}たち／私^{わたし}たちも、自分^{じぶん}勝手^{かつて}なイエスさまのイメー^{おも}ジを思^{えが}い描^がいて、そうならないとガッカリし「祈^{いの}ったのに、教会^{きょうかい}にも行^いっているのに、自分^{じぶん}が思^{おも}ったとおりにイエスさまはしてくれなかった。」と言^いって、イエスさまや教会^{きょうかい}から離^{はな}れてしまうことがないようにしましょう。

自分^{じぶん}の思^{おも}い描^{えが}くイエスさま像^{ぞう}ではなく、聖書^{せいしょ}が語^{かた}っている、聖書^{せいしょ}に描^{えが}かれているイエスさまをしっ^{ただ}かり、正^{ただ}しく見^みつめることが何^{なに}よりも大切^{たいせつ}です。このイエスさまを信^{しん}じるとき、ふたりの弟子^{でし}たちとお^{おな}じように「私たちの心^{こころ}はうちに燃^もえていたではないか」と、立^たちあ^あがって自分^{じぶん}のあるべき場所^{ばしょ}、進^{すす}むべき場所^むへ向^むかうことができるのです。

◆お祈り

「毎日^{まいにち}聖書^{せいしょ}を読み、教会^{きょうかい}学校^{がっこう}でのお話^{はなし}を聞^きき、おとなの人^{ひと}たちと一緒^{いっしょ}にささげる公同^{こうどう}の礼拝^{らいはい}にも出席^{しゅつせき}して、もっとイエスさまのことを正^{ただ}しく知^しることができるように助^{たす}けてくださ^さい。」

（豊橋ホサナキリスト教会牧師 加藤一也）



11月5日

テーマ：「見^みず^{しん}に^{もの}信^{さいわ}じる者は幸いです」

聖書箇所：ヨハネの福音書^{ふくいんしょ}20^{しょう}章19^{せつ}節～29^{せつ}節

◆今日のみことば

イエスは彼^{かれ}に言^いわれた。「あなたはわたしを見^みたから信^{しん}じたのですか。見^みず^{しん}に^{もの}信^{さいわ}じる者は幸いです。」ヨハネの福音書20章29節

◆メッセージ



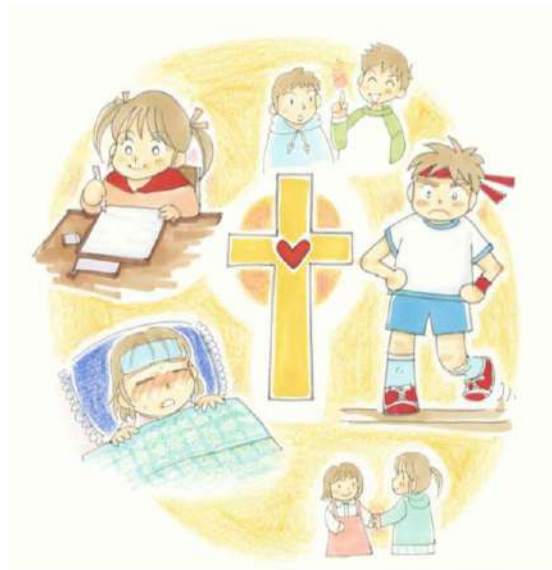
イエスさまの十二^{じゅうに}弟子^{でし}のひとりでトマスさんっていうお弟子^{でし}さんがいることを知^しってるかな。もしかしたら疑^{うたが}い深^{ぶか}いトマスというあだ名^なで聞いたことがあるかもしれないよね。

ところで、もし友^{とも}だちからとってもいいこと教^{おし}えてもらったのに、そんなの信^{しん}じられないよって疑^{うたが}うとしたら、どんなときかな。おそらく自^じ分の目^めで確^{たし}かめることが出来^でないときだよ。

十字架^{じゅうじか}の死^しから復^{ふっかつ}活^{かつ}したイエスさまに会^あった弟子^{でし}たちは、大^{だい}興^{こう}奮^{ふん}して喜^{よろこ}んでいました。でもトマスさんはイエスさまが復^{ふっかつ}活^{かつ}してあらわれたとき、そこに居^いませんでした。だから自^じ分の目^めで見^みてからでないと信^{しん}じられない！って疑^{うたが}ったんだね。

そこでイエスさまは、トマスさんが疑^{うたが}わないで信^{しん}じる人^{ひと}となるように、十字架^{じゅうじか}につけられた時^{とき}の、手^てと脇^{わき}腹^{はら}の傷^{きず}跡^{あと}に指^{ゆび}を差^さし入^いれなさいと言^いわれました。そうしたらトマスさんは、『イエスさま、あなた^{ぼく}は僕^{つみ}を罪^{すく}から救^{かた}ってくれる方^{かみ}、僕^{ぼく}の神^{ほん}さまだと本^{ほん}当^{とう}に信^{しん}じます』って、弟子^{でし}たち皆^{みな}がいの前^{まえ}ではっきり言^いました！よかったですね。だけどイエスさまは、そんなトマスさんに「わたしを見^みたから信^{しん}じたのですか。見^みなくても信^{しん}じる人^{ひと}は幸^{さいわ}せですよ」って教^{おし}えてくれました。

それは、「見^みないで信^{しん}じること」は、トマスさんだけに言^いわれたことではないからです。イエスさまを自^じ分の目^めで見^みることはできない私^{わたし}たちのために教^{おし}えてくださいました。信^{しん}じることができるのは、イエスさまの約^{やく}束^{そく}、神^{かみ}さまのみことばです。イエスさまを見^みないでも信^{しん}じることができるように、神^{かみ}さまは私^{わたし}たちが、お祈^{いの}りをして聖^{せい}書^{しょ}を読^よむと聖^{せい}霊^{れい}によって幸^{さいわ}いな恵^{めぐ}み^{あた}を与^みえられ、見^みないで信^{しん}じることが出来るようにしてくださっています。そのことを神^{かみ}さまに感^{かん}謝^{しゃ}していこうね。



◆お祈り

「目^めには見^みえない天^{てん}におられるイエスさまを見^みなくても信^{しん}じることができますように。」

(湖西キリスト教会牧師 山本博愛)

11月6日

テーマ：「あなたはわたしを愛しますか」

聖書箇所：ヨハネの福音書 21 章 15 節～19 節

◆今日のみことば

イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」
ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので、心を痛めて
イエスに言った。「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなた
を愛することをしっておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼
いなさい。」
ヨハネの福音書 21 章 17 節

◆メッセージ

よみがえられたイエスさまのそばで、ペテロさんはドキドキしていました。だってイエスさまの
ことを3回も「知らない！」って言っちゃったから。ペテロさんはイエスさまのこと、きらいだっ
たんだろうか？あとき、ほんとうにイエスさまのこと忘れちゃったんだろうか？ちがうね！ほん
とうはイエスさまのことだいすきだし、どこまでもついていきたい！

って思ってたんだよ。でも、こわくなって思わず言っちゃったんだね。
そう言っちゃったそのあと、イエスさまの言われた通り、ニワトリは
鳴くし、悲しくて、情けなくて、恥ずかしくて、ワーワー泣くしかで
きなかった。

十字架の上のものすごいお苦しみ、そして死んでお墓に入れられ、
しかしついに3日目の朝よみがえられ、ペテロさんに最初に会った
ガリラヤ湖に来てくださった。



そのとき、イエスさまはペテロさんに、あの「知らない」をぜ
んぶ取り消しにしてくれる、うれしい質問をしてくれたんだよ！
イエスさまは、ペテロさんの心が分かっていたんだ！

だから、失敗しても大丈夫なんだよ。イエスさまはあなたの心
をよ〜く知ってるからです。「ああ…失敗しちゃったなあ…」「こ
んなボク、だめだあ。」「こんなわたし、だめだわあ。」「かつこわ

るいなあ」「きっとみんなボクのこときらいになっちゃったかも…」「わたしのこと、みんなやだあ！
って思ってるかも…」そんなあなたに、今日イエスさまはやさしく尋ねてくださいます。

「あなたはわたしを愛しますか。」

ペテロさんのように「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」すつき
り、はっきりお答えしよう。そうするとね！イエスさまは私たちを赦し、主の御用のために用いて
くださいます。

◆お祈り

「イエスさま。ボクは、わたしは、あなたを愛します。あなたにしたがいます。」

(豊橋ホサナキリスト教会牧師 阿部真和)

11月7日

テーマ：「全世界に出て行き福音を宣べ伝える」

聖書箇所：マルコの福音書16章15節

◆今日のみことば

全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。
マルコの福音書16章15節

◆メッセージ

このみことばは、イエスさまが復活された後、天に昇られる前に命じられた伝道命令です。これは、その時の弟子たちにだけではなく、今日の私たちにも命じられたみことばです。伝道は、牧師や伝道者だけが行うことではなく、すべてのクリスチャンに与えられたこととです。それで、福音を宣べ伝えること、つまり、伝道について三つのことをお話します。



■ 皆さん、福音とは何ですか。

福音とは、イエスさまご自身が福音であり、イエスさまのお働きと教えが福音です。イエスさまが私たちの罪のために十字架で死なれ、私たちが義と認めるために復活されました。この事実を信じると、だれでも罪と死から救われて、永遠の命が与えられます。これが福音です。

■ 皆さん、神さまが私たちに福音を伝えさせる理由は何でしょうか。

いろいろありますが、その中で重要な三つのことを言いますと、一つ目に、福音は、罪人である人々を救いへと導くためです。だから、世界中の人に必要です。とても遠く感じるかもしれないませんが、世界、ということを経験してみましょう。

そして、二つ目に、伝道は神さまが願われ、喜ばれるからです。また、三つ目に、伝道する人には神さまから賞が与えられるからです。



■ では、どのように福音を伝えることがいいのでしょうか。

まず、うまく伝道ができるように神さまに祈りましょう。例えば次のようにやってみましょう。一つ目に、人々を教会に誘うことです。礼拝や伝道集会などに、家族や友だちを誘いましょう。二つ目に、伝道のトラクトを配ったり、伝道のメールを送ってみましょう。三つ目に、個人的に聖書のみことばを紹介したり、自分の証しをしましょう。自分には伝道する勇気も力も知恵もないと思うかも知れません。しかし、伝道は私たちの力によってするのではなく、聖霊の力によって行うことができるのです。

神さまは、私たちクリスチャンに伝道ができる力をすでに与えてくださいました。

ですから、神さまの助けを祈りながら、イエスさまのことをのべ伝えましょう。

◆お祈り

「神さま、私たちが福音をよく伝えられるように助けてください。私たちの伝道を通して、人々がイエス・キリストに導かれますように。」

(豊川教会牧師 金昌秀)

11月8日

テーマ：「世の終わりまでともに」

聖書箇所：マタイの福音書28章20節

◆今日のみことば

また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。

マタイの福音書28章20節

◆メッセージ

このイエスさまのことばは、マタイの福音書の一番最後のことばです。このあとイエスさまは天に上ってゆかれるのですが、「最後のひとこと」ってどうしても伝えておきたい大切な事を言うと思うんです。

イエスさまは「わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。」と命令しました。イエスさまは十字架に架かる前に、弟子たちに聖書のことばを正しく教えていました。自分にとって都合の良いことばだけ守るのではなくて、すべてのことばを、「わたしが教えたとおりに守りなさい」と言われました。だから、他の人にもイエスさまの教えを伝えることができます。それで、イエスさまは、教えを自分が守るだけでなく「教えなさい。」と言われました。彼らというのは「あらゆる国の人々」です。イエスさまの教えを守るように教えられ、従う人が「弟子」です。イエスさまの教えに従うしるしが、バプテスマ（洗礼）を受けることです。あらゆる国の人々がイエスさまの弟子となることができますから、みなに伝えていきたいですね。

これらの事は、とても大変なこと、そんな事が出来るかなあ、と思うかも知れません。でもその後、イエスさまは、それをやり遂げるための力を約束してくれているんです。それは何かというと...



「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」イエスさまは、私たちとずっと、世の終わりまで一緒にいてくれると、約束をしてくれています。イエスさまが、一緒にいて助けてくださると、約束してくれているんです。

自分の力で頑張ることが悪い、と言うことではありませんけれど、「私たちの力の源はイエスさま」です。私たちには、全能の神さまと一緒にいて、支えてくれているのです。

聖書のことば・イエスさまに、従って生きて行くこと。かんたんではないと思うかも知れません。でも、それをやり遂げるために、イエスさまは、私たちと一緒にいてくださるという素敵な約束をわすれられないでくださいね。

◆お祈り

「イエスさまと一緒にいてくださると言う約束を、いつもその事を忘れないように助けてください。」
(豊川中央キリスト教会牧師 樋口邦彦)

11月9日

テーマ：「イエスさまの昇天」

聖書箇所：使徒の働き1章3～11節

◆今日のみことば

そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」使徒の働き1章11節

◆メッセージ

イエスさまは、よみがえられました。でも、今、地上で見ることができません。どうしてでしょう？よみがえられた後、40日の間は使徒たちに現れて、ご自分が生きておられることを示



されました。そののちオリーブ山でお弟子さんたちが
見ている前で天に上げられ雲に包まれて見えなくなりました。イエスさまは天にかえられ神の右の座につかれたのです。そこでも、イエスさまは私たちのために働いてくださっています。

地上で天を見つめていたお弟子さんたちに、御使いが言いました。「イエスさまはいつまでも天におられるのではなく、もういちど今見たのと同じお姿で

もどってこられます。そのときすべての人がイエスさまだとわかります。」

イエスさまはもどってこられて、何をされるのでしょうか。すべての人をよみがえらせて、さばきを行われます。イエスさまを信じ、罪赦された人々は、さばきの日に、罪も死も苦しみもない天国にむかえられ、信じない人はおわることのない懲らしめの場所、燃えるゲヘナに行きます。イエスさまが、いつもどられるのかだれもわかりません。ドロボウのように突然来られるのです。

ある人々はイエスさまが遅いと感じて、イエスさまは来られないのではないかと思ったりします。でも、イエスさまがまだ来られない理由は、すべての人がイエスさまを信じて天にむかえられることを望んでおられるからです。私たちを通してイエスさまを知る人がもっと増えるように、今も天でイエスさまは働いておられます。あなたもイエスさまを信じて、天国にむかえていただきます。そして、家族や友だちも天国に行けるようにお祈りしていきましょう。

◆お祈り

「イエスさまを信じて天国にいけますことをありがとうございます。家族や友だちを教会にさそえますように。」

(高浜キリスト公会伝道師 原ユミ子)

11月10日

テーマ：「わたしの証人」

聖書箇所：使徒の働き1章8節

◆今日のみことば

しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。使徒の働き1章8節

◆メッセージ

お友だちにイエスさまのことを話したいけれど、恥ずかしいなあ。勇気がないなあ。と思ったことはありませんか。イエスさまの弟子たちも同じでした。

イエスさまは、弟子たちのところから離れて行く時に、「わたしの代わりにあなたがたのために助け主、聖霊が与えられるのを待つように」とお命じになりました。この聖霊が弟子たちの上に望まれると、力強くイエスさまをあかしすることが出来るようになる、と教えてくださいました。

イエスさまが十字架で死なれたとき、弟子たちは、自分たちも捕らえられて、罰を受けるのではないかと、とても心配になりました。戸にしっかりと鍵をかけて、家の中で隠れていました。そのような弟子たちのところに復活されたイエスさまが来てくださり、平安があるようにと励ましてくださいました。イエスさまは、十字架の上で苦しみを受けられて、三日目によみがえられました。ところが復活の出来事は、弟子たちでさえ、すぐに信じることが出来ませんでしたので、イエスさまは40日間、さまざまな方法で、ご自分が生きておられる事を弟子たちに示されました。そして、弟子たちが恐れることなく、力強く福音を伝えることが出来るように聖霊を与える、と言われたのです。

証人は、自分の見たこと聞いたことを正しく、他の人にお話しする人です。「それは本当のことですか。あなたの見間違いではないですか？」と厳しく聞かれても答えに詰まることのないように、



に、イエスさまは弟子たちの前に何度も姿を現されたのです。こうして、イエスさまは復活されて今も生きておられることが、弟子たちのあかしを通して全世界に届けられ、あなたのところにも届けられたのです。そして、聖霊はあなたにも力を与えてくださいます。イエスさまの救いは、本当のこと、お友だちを喜びに満たしてくれる救いです。聖霊の助けを祈り、イエスさまのこと、話してみましょう。

◆お祈り

「わたしのあかしによってお友達が、イエスさまを信じることができますように。」

(名古屋めぐみ教会牧師 石川 正)



11月11日

テーマ：「ペンテコステの日」

聖書箇所：使徒の働き2章1～4節

◆今日のみことば

すると、みな^{せいれい}が^み聖霊に満たされ、御霊^{みたま}が^{はな}話させてくださるとおりに、他国^{たこく}のことばで話^{はな}し出した。
使徒の働き2章4節

◆メッセージ

イエスさまは、十字架で亡くなったあと、三日目に復活されましたね。お弟子さんたちは、どんなにうれしかったでしょう。こんな幸せな日が40日続きましたが、イエスさまが天国に帰られる日になりました。その時「私の代わりに聖霊なる神さまが来られます。その方が、すぐ近くの人にも遠い外国の人にも私のことを伝えることができるように助けてくださいますよ。」と言って、天に昇られたのです。お弟子さんたちは、その時がくるのを祈りして待ちました。



10日経った日曜日の朝、ペンテコステという大きなお祭りの日のことです。かみさまをおそれるたくさんの方が、世界中から都エルサレムに集まっていた。お弟子さんたちがいつものようにお祈りしていると、ゴーッと天から激しい風が吹きおろすような音がして、一人一人の上に炎のような分かれた舌がとどまったのです。すると皆が、聖霊なる神さまによって、今まで話したこともないいろいろな外国語で、神さまの救いのみわざを話し始めたのです。お

祭りに来ていた外国人たちはあまりのことに「これはいったいどうしたんだ?!」と声をあげました。

びっくりするの無理はありません。だって、外国語で話している人たちは、イスラエルの田舎のふつうの人たちだったからです。でも、お弟子さんたちにはわかりました。「あ、イエスさまが天に昇られるとき約束してくださったとおりに、聖霊なる神さまが来てくださって、近くの人にも、遠い外国の人にも、イエスさまのことを話せるようにしてくださったんだ。」この日、弟子たちの話を聞いていた人々の中から信じる人々も起こされました。こうして、イエスさまの十字架と復活を述べ伝える教会が始まったのです。聖霊なる神さまは、約束通り、勇気を与えてくれます。どう話したらいいのか、も教えてください。聖霊なる神さまの助けは、すばらしいですね。私たちにも与えられていますよ！



◆お祈り

「私たちも、聖霊なる神さまの助けによって、イエスさまの救いを伝えることができますように。」

(愛知泉キリスト教会牧師 坂本美恵子)

11月12日

テーマ：「初代教会の姿」

聖書箇所：使徒の働き2章46、47節

◆今日のみことば

そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事とともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。使徒の働き2章46、47節

◆メッセージ

ペンテコステ（五旬節）というお祭りの日に、みんなが神さまを礼拝するために集まっていました。ペテロさんが「罪を言いあらわしなさい。そうすれば、イエスさまがゆるしてくださいます。」と言いました。そのことばを信じ受け入れて、バプテスマを受けた人がその日3000人ほど弟子に加えられました。加えてくださったのは、神さまです。こうして、エルサレム教会が誕生しました。彼らは、使徒たちの教え、つまり聖書のみことばをよく聞き、しっかりと従いました。もっているものを分かち合いました。イエスさまが行うようにとおっしゃった聖餐式の恵みを味わい続けました。どんなことでも、神さまに祈りをしていました。本当に熱心だったことが分かります。また、使徒たちによって多くの不思議としるしが行われた、と使徒の働き3章43節にあります。



信者となった者たちはみんないっしょにいて、全部のものを仲良くわけあっていたのです。そして、毎日、心を一つにして宮に集まり、いっしょに食事をしていました。生活のためのお金もかかりましたので、お金を持っている人はお金を持ってきたり、また、持っているものや財産を売ったりして、みんなの必要にしたがって、同じように仲良く分け合いました。喜んで、楽しくくらしていました。

した。

神さまを賛美し、イエスさまのお話を一生懸命にしている信者たちのすばらしい生活を見て、信じる人たちがたくさん増えました。神さまが毎日救われる人々を仲間に加えてくださった、と2章47節に書いてあります。毎日加えてくださったのですよ。なんと嬉しいことでしょう。教会が神さまのみことばにしっかりと従っていると、神さまが、信じる人々を加えてくださるのですね。私たちも、神さまのみことばにしっかりと従っていきましょう。そして、教会学校におとも友だちを、さそえるといいですね。



◆お祈り

「神さま、教会学校をありがとうございます。神さま、他の人に親切にできるようにさせてください。」

（聖泉キリスト教会牧師 村松宏二）

11月13日

テーマ：「私にあるもの」

聖書箇所：使徒の働き3章1～10節

◆今日のみことば

すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」 使徒の働き3章6節

◆メッセージ

ある所に、生まれつき足が曲がったまま、立つことも歩くこともできない人がいました。大人になっても、働いてお金をもうけることが出来ませんでした。



それで他の人に毎日、宮の門の所まで連れて行ってもらい、ものごいをしていました。人からお金や食べ物をもらって生活するしかありませんでした。そこは美しい、青銅で出来た門でしたから、美しいの門と呼ばれ、神さまを礼拝する人たちが、朝から晩まで大勢出たり入ったりしていました。その人たちに向かって、動くことができないこの人は頭を下げたお金を求めました。そんな生活が何年も続いていました。

ある日、ペテロさんとヨハネさんがお祈りするために、宮にやってきて、この美しいの門を通りました。この人は二人を見上げて、「どうか、このあわれな私をお恵みください」と言いました。二人は立ち止まってその人を見ました。ペテロさんは彼に私たちを見なさい、と言いました。彼はじっと二人を見つめて、親切そうな人たちなのできつとたくさんのお金を恵んでくれるにちがいないと思いました。ペテロさんは「私にはお金はありません。しかし私が持っているものをあげましょう。」と言いました。それは彼にとって、お金以上に必要なものでした。ペテロさんは「ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」こう言いながらペテロさんは、彼の右の手をとって起こしました。

すると足に力が入り、両足で立ち、歩けるようになりました。お金をもらうよりどんなにうれしかったことでしょう。足が治るとすぐ、彼は何をしたでしょうか。まず神さまに感謝しました。

ペテロさんとヨハネさんは神さまのお力によって不思議なことができたのです。私が助けてあげなければいけない、そのためにはお金があれば、力があれば、と思っていないですか。イエスさまに祈り求めると、神さまが力あることをしてくださいます。私たちは、何よりもすばらしいイエスさまをもっています。



◆お祈り

「神さま、他の人に親切にできるようにさせてください。」

(聖泉キリスト教会伝道師 村松ヒデ)

11月14日

テーマ：「誰に聞き従うのが正しいか」

聖書箇所：使徒の働き4章19、20節

◆今日のみことば

ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。使徒の働き4章19、20節

◆メッセージ

「誰に聞き従うのが正しいか」私たちの周りには色々な声が聞こえてきます。「あれをしたらいいよ」、「これをしようぜ」、「それをしたらだめだよ」、「みんなやっているから大丈夫だよ」……。

お父さんやお母さんの声、先生や友だちの声、周りの人たちやテレビなどから聞こえてくる声もあります。また、自分の心の中から聞こえてくる声もあります。神さまも聖書を通して私たちの心

に語りかけています。どの声を聞いたら良いのでしょうか。わからなくなってしまうこともあります。

ペテロさんとヨハネさんは宮でイエスさまこそが救い主だと語っていました。イエスさまを十字架につけたユダヤ教の指導者たちはそんな話しが広がっていくのを恐れていました。二人を捕らえて「イエスさまのことを話してはいけない」と厳しく命じました。偉い人たちに囲まれて、おどされます。とても

怖い。「どうなってしまおうのだろうか。」「偉い先生たちの声に聞き従った方が良いのかな。」

誰が一番偉いのでしょうか。誰が一番強いのか。誰が一番正しいのでしょうか。誰の声に聞き従うのが一番正しいのでしょうか。何が神さまの前に正しいことなのでしょう。

ペテロさんとヨハネさんは神さまの前に正しいことを選びました。一番偉いお方、一番強いお方、一番正しいお方の声に聞き従う決心をしたのです。イエスさまと出会って、色々と教えられて、イエスさまこそが自分の救い主、世界の救い主だと信じていたのです。だからそのことを語らないわけにはいかなかったのです。ペテロさん、ヨハネさん、その他のお弟子さんたちが恐れずにイエスさまのことを語っていたから、私たちもイエスさまのことを知ることができたのです。

「誰に聞き従うのが正しいか」わからなくなる時もあるでしょう。困る時があります。そんな時は神さまの前に何が正しいのか考えてください。神さまが聖書を通して私たちの心に語りかけてくださいます。

◆お祈り

「神さま、何があなたの前に正しいのか教えてください。弱い私たちがあなたの声に聞き従っていくことができるように助けてください。」

(尾崎キリスト教会牧師 三谷義也)



11月15日

テーマ：「アナニヤとサツピラ」

聖書箇所：使徒の働き5章1～11節

◆今日のみことば

それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではないか。
なぜこのようなことをたくらんだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。

使徒の働き5章4節

◆メッセージ

お小遣いやお年玉をもらったことがありますか？ お金は大切なものですが、もっと大切なことはそれをどのように使うかです。すでに神さまを信じて洗礼を受けているお友だちは、10分の1は神さまのものなのでおさげし、それから使いましょう。

イエスさまが死んで 甦り、天にお帰りになると、聖霊なる神さまが来てくださり、神さまのすばらしいお働きがたくさん行われました。救われる人たちが男の人だけで5千人、もちろん女の人も子どもたちもいて、教会はすごい勢いで大きくなっていきました。大勢いても心を一つにし、みことばに従って愛し合い、必要な物はすべて分け合ったので、困る人はいませんでした。バルナバさんも自分の畑を売って全部をささげました。救われたことを喜ぶ人々で溢れている教会はなんて素敵なのでしょう！！



ところが、アナニアさんとサツピラさん夫婦は違いました。せっかく自分たちの土地を売り、教会に献金を持ってきたのですが、ふたりで相談して、ごまかすことにしました。自分たちの分を先にとっておき、みんなには代金の全部だと言ったのです。もともとそのお金はアナニアさんとサツピラさんのもので、い



くらささげるのも自由にできたのに、嘘をついてみんなをだましてしまったのです。それは人をだますだけでなく、神さまをだます大きな罪でした。聖霊なる神さまは教会に罪が入ってくるのをとても悲しまれるお方です。神さまがアナニアさんにペテロさんを通して、「あなたはサタンに心を奪われて…神を欺いた」と言われると、アナニアさんはその場で倒れて死んでしまいました。

それから3時間たって、何も知らないで来たサツピラさんも、誰にもばれないと思って同じように嘘をついたので、すぐに倒れて死んでしまいました。神さまはすべてを知っておられたのです。

皆さんはどんな心でささげものをしていますか？ 私たちは小さくても、イエスさまの愛をお手本に助け合い、イエスさまをお伝えし、喜んでささげものをしていきましょう。

◆お祈り

「神さま、いつも教会と人々を愛し、心からのささげものができますよう助けてください。」

(生駒めぐみ教会伝道師 中谷きみ子)

11月16日

テーマ：「執事の選出」

聖書箇所：使徒の働き6章1～7節

◆今日のみことば

そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち
七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。

使徒の働き6章3節

◆メッセージ

イエスさまを信じる人が増えることは、うれしいですね。お弟子さんたちは、心を合わせ、力を合わせ、お祈りをし、伝道をしました。そして、たくさんの人がイエスさまを信じるようになりました。しかし、イエスさまを信じる人が増えると、困ったことも起こりました。信者たちはみんな助け合って暮らしていましたが、人数が急に増えたので、食べ物を同じように分けるのがむずかしくなったのです。

時間をかけて、ていねいに配るなら、みんなに公平にゆきわたります。でも、そうすれば、使徒たちは、一日中、そのための作業をしなければなりません。使徒たちは、イエスさまの福音をお話しすることを第一にしなければなりませんから、みんなのお世話をする係が必要なのです。

そこで、みんなの中から、神さまを心から信じて、聖霊に満たされ、賢くて、みんなから尊敬されている人、ステパノ、ピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、

パルメナ、ニコラオの七人が選ばれました。そして、この人たちが喜んでみんなのお世話をしたので、使徒たちは、安心して神さまのみことばを伝えることができるようになりました。そして、エルサレムでは、神さまを信じる人がますます増えました。

わたしたちも、この七人のように、神さまのお仕事のお手伝いをする人になれないでしょうか。イエスさまのことを伝えるためには、いろいろな働きをする人が必要です。イエスさまを伝えるために、どんなことができるでしょうか。あなたはどんなお手伝いができるでしょうか。どんなことをすれば喜ばれるでしょうか。考えてみましょう。

◆お祈り

「イエスさまのことを伝えていくために、わたしも神さまのためにお手伝いをする事ができますように。神さまのお手伝いをするためにわたしを用いてください。そして、イエスさまを信じる人がたくさん起こされますように。」

(大和郡山めぐみ教会牧師 正村献三)



11月17日

テーマ：「最初の殉教者」

聖書箇所：使徒の働き7章54節～8章7節

◆今日のみことば

そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って、眠りについた。

使徒の働き7章60節

◆メッセージ

ステパノさんは、イエスさまを信じて、いつも神さまに従っている人でした。ある日、大勢の人の前でイエスさまのことをお話ししていました。ステパノさんのしていることが気に入らない人もいました。ステパノさんは、神さまのことを話したというだけで捕まえられました。ステパノさんは、神さまが昔からしてくださったすばらしいできごとを、話しました。しかし、それを聞いた人たちは、真っ赤になって怒りだしました。けれどもステパノさんは、静かに天を見上げて言いました。「ごらんなさい。天が開いてイエスさまが神さまの右に立っていらっしゃるのを見



えます。」みんなますます腹を立てて、いっせいにステパノさんのところに集まって来ました。そして、ステパノさんを町の外に追い出して、石を拾って投げつけたのです。

石をぶつけられる中で、ステパノさんは、「イエスさま」とお祈りしました。それから、ひざをついて、「イエスさま。この人たちをゆるしてあげてください」と言うと、息をひき取りました。ステパノさんは、自分にひどいことをする

人のためにお祈りしました。こうして、ステパノさんは、最初の殉教者となりました。

この出来事のあと、イエスさまを信じる人に対する迫害はどんどんひどくなり、イエスさまを信じる人たちは、いろいろなところに散らされました。しかし、たくさんの人にイエスさまのことが伝えられ、イエスさまを信じる人が増えていきました。

わたしたちは、もしかすると、イエスさまを信じていることで、悪口を言われたりすることがあるかもしれません。また、イエスさまが喜ばれることを行うことは、勇気がいることかもしれません。しかし、ステパノさんのように人々を恐れず、神さまを信じて歩むとき、神さまの助けがあります。また、おそれずにイエスさまのことを話したり、イエスさまの喜ばれることを行うことで、イエスさまのことを信じる人が増えていくことでしょう。



◆お祈り

「どんなときでも、神さまを信じて、人をおそれずにイエスさまの喜ばれることをおこなうことができるように助けてください。」

(大和郡山めぐみ教会伝道師 正村直子)

11月18日

テーマ：「パウロの回心」

聖書箇所：使徒の働き9章1～20節

◆今日のみことば

彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」
使徒の働き9章5節

◆メッセージ

神さまの教えを守ろうと努力することはとても大切なことです。でも、私たちは自分の頑張りで神さまの教えを完全には守ることはできませんし、自分の力で天国に行くこともできません。だから、そんな私たちのためにイエスさまが助けに来てくださったのです。

パウロ（サウル）さんは自分の力だけで神さまの教えを守り、良い行いをいっぱいして頑張ることで、神さまに愛してもらおうと考えた人でした。それで、「イエスさまなんて必要ない」と言って、イエスさまを信じる人たちを捕まえては、ひどい目にあわせていました。



でも、そんなパウロさんにイエスさまが会ってくださり、「あなたの考えは間違っているよ」ということを教えてくださいました。パウロさんは目が見えなくなる体験を通して、イエスさまがいっしょにいてくださらなかったら、自分の力だけでは何もできないことを知ったのです。また、自分では何もできないことに気づいて、神さまのひとり子であるイエスさまに助けを求める人こそが、神さまに愛される人だということも知りました。

そしてさらに、イエスさまはアナニヤさんという人を送って、これからパウロさんがイエスさまの弟子として「活躍するのを期待しているよ」ということも話しました。

パウロさんはうれしくなって、それからはイエスさまを信じて、イエスさまに頼る人へと変えられて、一人でも多くの人にイエスさまのことを教えてあげたいと思い、イエスさまのことを命がけで伝える人になりました。

神さまは、私たちが頑張って努力するから愛してくださるのではありません。神さまは、私たちのことをそのまま、すでに愛してくださっています。そんな神さまの愛に気づいて、私たちのことを助けてくださるイエスさまに感謝し、力をいただいて、神さまの愛を忘れずに活躍する人とならせていただきましょう。



◆お祈り

「神さまが私を愛してくださってありがとうございます。神さまの愛を忘れずに、神さまにお返しする生き方ができますように。」

（松原聖書教会牧師 中村忍）

11月19日

テーマ：「ヨッパのタビタ」

聖書箇所：使徒の働き9章36～42節

◆今日のみことば

ヨッパにタビタ（ギリシア語に訳せば、ドルカス）という女の弟子がいた。この女は、多くのよいわざと施しをしていた。使徒の働き9章36節

◆メッセージ

イエスさまの弟子ペテロさんは、いろいろな町を回って、イエスさまが神さまでありイエスさまを信じれば救われると伝えていました。ルダという町にいる時、近くのヨッパの町では悲しい出来事がおこりました。タビタさんというイエスさまの女弟子が、重い病気になってしまったのです。タビタさんはイエスさまを信じ、たくさんの人たちに良いことをしていました。夫を亡くし貧しいくらしをしている人たちのために下着や上着を作ってあげたり、やさしく面倒を見ていたのです。教会には、いろいろな働きがあります。タビタさんは、自分にできることをして教会に仕えていました。神さまの思いに満たされて奉仕してきたことは、みなに喜ばれていました。タビタさんの病気を多くの



人が心配し、祈ったことでしょう。でも、病気は良くなり、とうとう死んでしまったのです。人々はタビタさんの体を洗い、屋上の間に置きました。

そしてルダにいるペテロさんに「すぐに来てください！」と使いを送りました。ペテロさんが到着した時、人々は悲しんで泣いていました。ペテロさんは人々を部屋から出し、ひざまずいて神さまに祈りました。そして、かつてイエスさまがしたように、「タビタ、クミ（起きなさい）」と声をかけたのです。すると、タビタさんは目を開け、起き上がりました！死後2・3日はたっていたでしょう。神さまの奇蹟によって、タビタさんは生き返ったのです。ペテロさんは手を貸してタビタさんを立たせ、人々を呼び、生き返った彼女を見せました。みんなとても驚いたことでしょうね。このことはすぐにヨッパ中に知



れ渡りました。

イエスさまによって生き返らされたタビタさん。地上ではその後また死を迎えましたが、生かされている間、イエスさまの素晴らしさをあらわすという大きな使命が与えられました。生き返ったタビタさんと出会った人は、神さまの力を見たことでしょう。タビタさんを通して多くの人が神さまを信じた、と聖書に書いてあります。死という大きな問題さえも支配し解決してくださる神さまは、わたしたちの人生をも、生きるにしても死ぬにしても神さまの素晴らしさをあらわすように、導いてくださいます。



◆お祈り

「神さまが、わたしのいのちを通して、神さまの力や素晴らしさをあらわしてくださいように。」

（高槻聖書教会伝道師 玉垣麻美）

11月20日

テーマ：「^{きょうかい}教会による^{はけん}派遣」

聖書箇所：使徒の働き^{しと はたら} 13章^{しょう} 1節^{せつ}～3節^{せつ}

◆今日のみことば

そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。

使徒の働き^{しと はたら} 13章^{しょう} 3節^{せつ}

◆メッセージ

神さまは、私たちが教会に集まることを喜んでいいます。そして、教会に集まる人たちの集い、つまり教会の交わりの中で生きるように私たちを置いてくださっています。教会の交わりで、嬉しいことを話したり、少し辛いと思うことをお祈りして欲しいこととして教会にいるお友だちやお兄さんお姉さんに伝えたりします。また、教会に来られている方からお祈りして欲しいことを聞いて祈ったり、誰かを助けたり、教会の交わりの中で奉仕をします。そうやってイエスさまのことを伝える働きができます。それらはすべて、神さまが与えてくださった素晴らしい恵みです！そして、みんなが集まる教会の大切な働きですよね。

バルナバさんやサウロさん（あとで「パウロ」と名前が変わる）は、アンテオケにある教会に集まっていました。神さまのために、そして教会や地域の人たちのために、素晴らしい働きをいくつもしていました。その教会には、いろいろな言葉をしゃべる人たちや生活の仕方、お仕事も違う人たちもいたようです。



え方が違う人たちも多かったと思うと、神さまの働きのために相談することもたくさんあったでしょう。もし相談していたことの答えが違ったりしたらどうでしょう。「私が代表してお祈りをする！」「あの人は何でもできるから宣教チームのリーダーになったらいいな。」それらの思いは良いことですが、神さまの思いはどうだったのでしょうか？

アンテオケ教会の人たちは、教会に集まる人たちと良くお祈りをしていました。どんな時でも、心を合わせて神さまに信頼して礼拝をささげていました。するとアンテオケ教会の人たちは聖霊を通して、神さまの素晴らしいご計画を知りました。それはアンテオケ教会のリーダーだったバルナバさんとサウロさんがイエス様を伝えるために世界へと旅に出ることになったのです！つまり、宣教師として神さまと教会の人たちの中から選ばれて遣わされることになりました。自分の考えや思いが一番ではなく、神さまのご計画を第一にしました。

神さまは、私たちを教会の交わりから神さまのために働くように導いています。私たちは、教会の交わりの中で礼拝をささげ、祈り合う時、どんな働きでも、どこでも神さまのために働くことができます。



◆お祈り

「教会の交わりの中で祈られていることを知り、どこでも、イエスさまの弟子として神さまのために、神さまの願っている働きができるように、私を用いてください。」（学園前聖書教会牧師 吉田 篤）

11月21日

テーマ：「ルステラ宣教」

聖書箇所：使徒の働き14章8～18節

◆今日のみことば

言った。「皆さん。どうしてこんなことをするのですか。私たちも皆さんと同じ人間です。そして、あなたがたがこのようなむなしいことを捨てて、天と地と海とそこの中にあるすべてのものをお造りになった生ける神に立ち返るように、福音を宣べ伝えている者たちです。」

使徒の働き14章15節

◆メッセージ

ルステラというところで、パウロさんとバルナバさんはイエスさまのメッセージを語っていました。そこに、生まれながら足が悪く歩いたことがなかった人がいました。語っていたパウロさんは、彼に目を留め、イエスさまだったら治してくださるという信仰があるのを見て、「自分の足で、まっすぐに立ちなさい」と言いました。すると、彼は飛び上がって歩き出しました。パウロさんのしたことを見た群衆は、パウロさんとバルナバさんを神さまだと思って、「神々だ。人間の姿をした神々だ」と叫び出して、二人にささげものをしようとしました。二人は群衆が神さまを汚すふるまいをするのを見てびっくりし、大あわてで、「自分たちは普通の人間であり、足の悪い人を歩くことができるようにしたのは、天と地と海、それにその中のすべてのものをお造りになった、まことの神さまです」と、彼らにいけにえをささげるのをやめさせました。



私たちが、お友だちの病気のために祈ったり、なくしたものがみつかるように祈ったとき、病気が治ったり、なくしたものがみつかることがよくあります。その時、「ぼくが祈ったから、私が祈ったから祈りがきかれたんだよ」と言って、自分を自慢しないようにしましょう。祈りにこたえて病気を治してくださり、なくしたものをみつかるようにしてくださったのは、天地を造られたまことの神さまだからです。だから「まことの神さまの恵みです」と言って、まことの神さまを友だちに紹介するチャンスにしましょう。



◆お祈り

「天と地をお造りになった神さま。祈りにこたえてくださった時、それをあなたを紹介するためのチャンスとすることができるよう」

(松原聖書教会牧師 野口富久)

11月22日

テーマ：「マケドニヤの叫び」

聖書箇所：使徒の働き16章6～15節

◆今日のみことば

ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニア人が彼の前に立って、「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください」と懇願するのであった。使徒の働き16章9節

◆メッセージ

パウロさんがイエスさまを伝えようと、アジア（今のトルコ）で伝道旅行をしていた時のことです。もっと多くの人々がイエスさまに出会ってほしい。そう願ったパウロさんは、アジアで一番大きな町（エペソ）に行こうとしました。

しかし、不思議なことに聖霊なる神さまは、このパウロさんの伝道計画を止めてしまいます。そこで、パウロさんは、北のビテニアに行こうとします。しかし、またまた聖霊なる神さまは、パウロさんの伝道計画を止めてしまったのです。

イエスさまを伝えることは、正しいことのはずです。どうして神さまは、この伝道計画を止めてしまうのだろうか。そうパウロさんは疑問に思ったのではないのでしょうか。

神さまのお考えが分からないまま、パウロさんは西へ長い旅をして、トロアスという港町にたどり着きました。目の前のエゲ海の向こう岸にはマケドニアがあります。ヨーロッパです。

ある夜、パウロさんは幻を見ます。ひとりのマケドニア人が「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください」と願ったのです。



この幻を見た時、パウロさんは神さまのお考えが分かりました。イエスさまを伝えるために、神さまは「海を渡ってマケドニアに行きなさい」とおっしゃっている。そう確信したパウロさんは海を渡ります。こうしてヨーロッパ伝道が始まりました。そして多くの人々がイエスさまに出会うことになったのです。

あなたは、自分の計画が実現することが、一番良いことだと考えていませんか。計画がうまく行かず、自分の思った通りにならなければ、イライラすることや、怒ってしまうことはないのでしょうか。

しかし、神さまの計画が実現することが一番良いことなのです。あなたの計画ではなく、神さまの計画が実現するように、神さまはあなたを導いておられます。神さまの言葉を信じて、神さまが願う道へ進むものではありませんか。

◆お祈り

「私の思い通りではなく、神さまの思い通りが一番良いのです。そういつも信じて、歩むことができますように。」

（高槻聖書教会牧師 玉垣資）



11月23日

テーマ：「家族の救い」

聖書箇所：使徒の働き16章16～34節

◆今日のみことば

主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒の働き16章33節

◆メッセージ

ピリピで宣教していたパウロさんとシラスさんは、お金儲けを願っている占い師の仲間から訴えられて、牢屋に入れられてしまいました。パウロさんとシラスさんは、牢屋でも神さまに賛美と祈りをささげていました。その夜、地震が起こりました。牢屋の扉が開き、鎖が解けたにもかかわらず、誰も逃げ出ませんでした。看守をはじめみんな、パウロさんシラスさんのメッセージに聞き入りました。看守は、パウロさんとシラスさんの言葉を通してイエスさまを信じ、その後すぐにふたりを家族に紹介し、福音を家族に届けます。看守の家族は、パウロさんたちからイエスさまのことを聞き、イエスさまが誰であり、何のために十字架にかけられたのか、十字架にかけられた後、どうなったのか、救われるために必要なことをすべて聞くことができたのです。そして、福音によってかえられたお父さんの変化に驚くとともに、届けられた福音を聞いて、自分たちもまことの神さまを信じる人になりたいと願い、それぞれが信じて、みなが救われたのです。



家族の救いは、ぼくたち、わたしたちの一番の願いです。わたしたちが本気でイエスさまを信じて救われたことを喜んで、イエスさまのご命令に従う人となるとき、それが一番の家族に対する証となります。わたしたちは、自分で自分を変えることはできません。でも、神さまには不可能なことはないのです。わたしたちを罪の力から自由にしてくださった神さまの力を信じて、勇気をもって家族に福音を伝え続けましょう。

わたしたちがイエスさまを信じたら、自動的に家族も救われるというわけではありません。神さまが自分を用いてくださり、自分が救われたように、家族も必ず救われると信じ期待して良いのです。

ですから、家族の救いのために真剣に祈るとともに、自分自身がイエスさまのご命令に喜んで従う決意をし、まだ救われていない家族に喜んで伝えましょう。



◆お祈り

「家族の救いのために祈りつつ、イエスさまに従って生活できるようにお助けください。」

(小海キリスト教会牧師 荒籾実)

11月24日

テーマ：「知らずに拝んでいるもの」

聖書箇所：使徒の働き17章16～34節

◆今日のみことば

神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。
使徒の働き17章30節

◆メッセージ

私たちが住んでいる日本には、たくさんの神社やお寺があります。そこには必ず仏像などの偶像が置いてあります。あなたは、たくさんの神社やお寺を見て、どんな気持ちになりますか。パウロさんが訪れたアテネという町には、偶像がいっぱいあったので、パウロさんは怒りました。パウロさんが怒ったことは、正しいことです。それは、アテネの人たちが天地万物をお造りになった本当の神さまを知らずに、偶像を拝んで満足していたからです。パウロさんは、アテネに住んでいる人たちに、知らずに拝んでいる本当の神さまのことを四つ、熱心に伝えました。



一つ目は、本当の神さまは天地万物を造られた方だから、人間が作った宮などには住まれないこと。二つ目は、私たちは神さまに造られた神さまの子どもだから、偶像を神さまとして拝んではならないこと。三つ目は、偶像を拝んでいたことを神さまは見過ごしておられたが、今はあやまって本当の神さまに心を向けるように命じておられるので、素直に本当の神さまにあやまればよいこと。四つ目は、本当の神さまがこの世をさばく方であるイエスさまを復活させたこと、以上のことを伝えました。

しかし、それまでパウロさんの話を聞いていたアテネの人たちも、「復活」の話の聞くと、とたんに態度が変わって、その場から立ち去ってしまいました。それは、死人が復活することがどれだけ頭で考えても理解できないことだったからです。その一方で、裁判官やほかにも何人かの人たちが、本当の神さまを信じました。ですから、パウロさんの伝道を、神さまは用いてくださったのです。

あなたは、イエスさまを信じていない家族やお友だちに、イエスさまを信じたら天国へ入ることができるということを話したことがあるでしょうか。イエスさまの復活は、信じた私たちも復活できるという確かな証拠です。ばかにされたり、反対されたりしても、勇気を出して、知らずに拝んでいる本当の神さまとイエスさまのことを伝えていきましょう。



◆お祈り

「神さま、家族やお友だちの中に、本当の神さまを知らずに偶像を拝んでいる人たちがいます。本当の神さまとイエスさまのことを、勇気を出して伝えていけますように、助けてください。」
(くずは聖書教会牧師 石黒久浩)

11月25日

テーマ：「アクラとプリスキラ」

聖書箇所：使徒の働き 18章 1～4節、24～27節

◆今日のみことば

彼は会堂で大胆に語り始めた。それを聞いていたアクラとプリスキラは、彼を招き入れて、神の道をもっと正確に彼に説明した。使徒の働き 18章 26節

◆メッセージ

新約聖書には有名な人がたくさん出てきますが、今日は有名なクリスチャン夫婦を紹介しします。それは使徒の働きの中に出てくるアクラさん（夫）とプリスキラさん（妻）です。アクラさんとプリスキラさんは、あのパウロさんとコリントの町で出会いました。パウロさんとは職業も同じ。パウロさんを自分たちの家に住まわせ、一緒に天幕作りのお仕事をしました。お友達でした。アクラさんとプリスキラさんは聖書のこと神さまのことをよく学んでいたの、伝道もしましたし、若いクリスチャンに教えることもしました。その中の一人・アポロさんはアクラさんとプリスキラさんの家に招かれて、聖書を正しく教えてもらいました。しばらくしてアポロさんは、素晴らしい伝道者になります。それはアクラさんとプリスキラさんのおかげでもあったでしょう。その後も、アクラさんとプリスキラさんはクリスチャンたちを家に招いて家庭集会をしたり、いろいろな所を巡って伝道するパウロさんやアポロさんのために、祈ったり手紙を書いたりしてずっと応援していきました。



2000年前、イスラエルから始まったイエスさまの福音を宣べ伝える働きが、今、日本に



る私たちに届けられているのは、とてもたくさんのクリスチャンが血や汗や涙を流し熱心に伝道をしてくれたおかげです。その中にアクラさんとプリスキラさんの夫婦もいたのです。感謝ですね。私たちもアクラさんとプリスキラさんのように教会に仕え、伝道者を支えて、2000年続く神さまの教えを、後の時代の人にバトンリレーをしていきましょう。

◆お祈り

「私たちもアクラとプリスキラさんのような良い働きができますように。」

(武庫之荘めぐみ教会伝道師 松田悦子)

11月26日

テーマ：「^{おそ}恐れ^{かた}ないで^{つづ}語り^{つづ}続け^{つづ}なさい」

せいしよかしよ しと しょう せつ せつ
聖書箇所：使徒18章5節～11節

◆^{きょう}今日^{きょう}のみことば

ある夜、主は幻によってパウロに、「^{おそ}恐れ^{かた}ないで^{つづ}語り^{つづ}続け^{つづ}なさい。黙^{だま}ってはいけない。わたしがあなたとともにいるのだ。だれもあなたを襲^{おそ}って、危^き害^{がい}を加^{くわ}える者^{もの}はない。この町^{まち}には、わたしの民^{たみ}がたくさんいるから」と言^いわれた。
使徒の働き18章9、10節

◆メッセージ

みなさんは、イエスさまのことを伝えたり、友だちを教会に誘ったことがありますか。友だちにどう思われるかな、と心配になって、勇気が出せないこともありますね。パウロさんはいつも人々にイエスさまこそキリスト、救い主であると伝えました。パウロさんがコリントという街で伝道していたとき、神さまは「^{おそ}恐れ^{かた}ないで^{つづ}語り^{つづ}続け^{つづ}なさい」と言われました。神さまはどうしてそんなことを言われたのでしょうか。

実は、パウロさんがイエスさまのことをお話しするとき、喜んで聞いてくれる人々は多くはありませんでした。信じる人もいましたが、暴言を吐いたり、反抗したり、パウロさんを殺そうとする人たちもいたのです。何度も辛い目にあったパウロさんの心はどんなだったのでしょうか。

そんなパウロさんに、神さまは強く語られます。「^{おそ}恐れ^{かた}ないで^{つづ}語り^{つづ}続け^{つづ}なさい。黙^{だま}ってはいけない。わたしがあなたとともにいる」それに、「この町には、わたしの民がたくさんいるから」と。神さまはわたしたちをも同じように励ましてくださいます。^{おそ}恐れ^{かた}ないで^{つづ}語り^{つづ}続け^{つづ}なさい。わたしがあなたとともにいる。あなたの周りにも、わたしの民がたくさんいるから、と。

その後、神さまの励ましを受け取ってパウロはなんと1年半もコリントでイエスさまのことを語り続けたのです。そうして、コリントにも神さまの民が集う教会が誕生することになったのです。

神さまは、私たちの心も知っていてくださって、励ましてくださいます。勇気も与えてくださいます。自分の力で頑張^{がんば}って、ではなく、ともにいてくださる神さまの励ましを受けていきましょう。

◆^{いの}お祈り

イエスさまのことを伝えたいです。どうぞ勇気を与えてください。あなたを信じます。わたしのことも用いてください。

(武庫之荘めぐみ教会伝道師 鈴木雅也)



11月27日

テーマ：「ローマへの導き」

聖書箇所：使徒23章11節～24節、25章6節～12節

◆今日のみことば

その夜、主がパウロのそばに立って、「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかしをしなければならない」と言われた。

使徒の働き 23章11節

◆メッセージ

ユダヤ教を捨て、キリストの伝道者となったパウロさんは、ユダヤ人たちに命を狙われる身となります。ユダヤ人たちはパウロさんを殺害しようと何度も企てますが、そのつど神さまに阻止されます。そのような中で、エルサレムで捕えられたパウロさんはローマの兵士に守られながら、ユダヤ人への弁明とあかしの機会を与えられます。ところが、あかしを聞いたユダヤ人たちは、「こんな男は殺してしまえ」とわめきたてます。＜22章22節＞



千人隊長は危険を避けるためにパウロさんを捕らえ安全を確保し、今度は祭司長や議会での弁明の機会を与えます。パウロさんも物怖じせず、どうどうとイエスさまをあかしすることができました。

その夜、神さまから与えられたのが冒頭のおことばです。「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしをあかししたように、ローマでもあかしをしなければならない」＜23章11節＞

神さまは世界の都ローマで福音を語るように、パウロさんに使命を与えられました。けれども、またもや40人以上のユダヤ人たちが徒党を組み、パウロさんを殺す計画を立てます。この計画も通報してくれる者が居て、パウロさんの知るところとなります。

そこで千人隊長は、たくさんの護衛兵をつけて、カイザリヤに居たローマ総督ペリクスのもとにパウロさんを護送します。パウロさんはローマ市民権を持っていたので、自らの裁判をローマ皇帝にしてもらいます。これによってパウロさんは、ローマの裁判でイエスさまをあかしするように導かれたのです。



パウロさんがローマでキリストをあかしすることは、神さまのご計画です。ですからそのご計画を果たすまでは決して命を狙われることはありません。神さまのみこころは必ず成るのです。そして、いつも神さまはみことばをもって励まし続けてくださいました。この神さまに従っていけるのは、幸せですね。

◆ お祈り

「パウロさんを守ってくださった神さま。あなたのご計画は必ず成ると信じる信仰を与えてください。」

(武庫之荘めぐみ教会牧師 松田吉広)

11月28日

テーマ：「^{げんき}^だ元気を出しなさい」

^{せいしよかしよ}聖書箇所：使徒^{しょう}27章^{せつ}21節～36節

◆今日のみことば

「ですから、皆さん、^{げんき}元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりにになると、私は神によって信じています。」

使徒の働き^{しょう}27章^{せつ}25節

◆メッセージ

神さまを信じて生きるって素敵だなあって思います。でも、わたしたちの毎日は楽しいことばかりではありませんね。お友達とケンカをしていやな思いをするときもあります。だいじなものをなくしてしまって悲しい思いをすることだってあります。返ってきたテストの点数がすごく悪くって、「どうしよう。お母さんに怒られるかも…」って、落ち込んでしまうことだってあります。でも、どんなことが起こっても、わたしたちの心がどうであっても、神さまはわたしたちを守ってくださる、だからがっかりしない、っていうことを、今日のみにことばを通して学びたいと思います。

パウロさんとその仲間たちが、逮捕されて船でローマへ運ばれていたときのこと。ローマでパウロさんたちを待ちかまえているのは、ムチウチなどの重い罰かもしれません。最悪だと死刑かもしれません。彼らはイエスさまを人々に伝えようとしていたので、逮捕されてしまったのです。そして



裁判にかけられるためにローマに運ばれていたのです。考えただけでも恐ろしい船旅です。でもパウロさんたちは、ローマに連れて行かれたらそこでもイエスさまのことを人々に伝えられると喜んでいました。

ところが、さらに悪いことに、その船は旅の途中、大嵐にあってしまいました。海の上です。船が沈んだら、みんな死んでしまいます。みんなは震え上がってしまいました。少しでも沈まないように船を軽くしようと、いろんなものを海に捨て始めました。みんなの顔は青ざめていたでしょう。でも、パウロさんは違いました。パ

い。みんなにこう言ったのです。「皆さん、告げられたとおりにになると、私は神によってに食事を食べて^{げんき}元気を出すように励ましくことが神さまの導きだとかたく信じていただくことも。神さまはみにことばで今は今も同じです。神さまは大好きなみんなです。だから、^{げんき}元気を出しましょう。



ウロさんの言葉を聞いてくださ^{げんき}元気を出しなさい。すべて私に信じています。」そして、みんなした。パウロさんはローマに行きました。そして神さまは必ず約束してくださいましたね。そのことを必ず守ってくださいま

◆ お祈り

「いつも かみさまのまもりを しんじられるように、げんきがでるように、 たすけてください。」

(播磨キリスト教会牧師 山本和義)

11月29日

テーマ：「被造物によって認められる神の本性」

せいしょくしょ

聖書箇所：ローマ人への手紙

てがみ

しょう

せつ

1章20節

◆きょう 今日のみことば

神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

ローマ人への手紙1章20節

◆メッセージ

神さまを知るために・・・私たちは、神さまのことを知るために、何をすればよいのでしょうか。何より大切なことは、聖書のみことばによって神さまのことを知ることです。それは、聖書は、神さまが私たちにくださった神さまからのお手紙だからですよね。

そして、もう一つ、神さまのすばらしさを私たちに伝えているものがあります。それは、神さまがつくられた自然です。考えてみてください。あの熱い太陽をつくられた神さまは、どれほど力強いお方なのでしょうか。そして、宇宙に広がる月や星をつくられた神さまは、どれほど大きなお方なのでしょうか。また、落ちている葉っぱの一枚を見ても、神さまはどれほど細かく、美しいものをつくられたのでしょうか。自然には、神さまの力、大きさ、美しさ、細やかさがあふれています。



そして、何よりすばらしいと思うのは、自然のなかに生きているもののすべてに、いのちがある、ということです。私たち人間はもちろん、犬や猫などの動物にも、空を飛んでいる鳥にも、はたまた、こんなに小さな虫にだって、いのちがあります。このいのちは誰がつくったのでしょうか。そう、神さまです。神さまだけがいのちをつくることができます。人間もいろいろなものをつくることはできますが、いのちをつくることはできません。だから、人間も自然も神さまに創られたにすぎないことを忘れないように、神さまに感謝しましょう。

私たちは、神さまがつくられた自然にふれるとき、神さまのすばらしさを感じることができます。神さまの力強さ、大きさ、美しさ、細やかさ、そして豊かさが自然の中にはあふれています。今度、外に出たとき、まわりを見渡してみてください。いたるところに神さまのすばらしさを発見することができますでしょう。

◆いの お祈り

天のお父さま、私たちに、すばらしい自然を与えてくださり、ありがとうございます。今日一日、神さまのみわざに、心をとめて歩ませてください。

(豊田神池キリスト教会牧師 佐野慶)

11月30日

テーマ：「^{かみ めぐ}神の恵み」

^{せいしょ かしょ}聖書箇所：ローマ人への手紙 ^{しょう}3章 ^{せつ}10節、^{せつ}23節～^{せつ}24節

◆今日のみことば

ただ、^{かみ めぐ}神の恵みにより、キリスト・イエスによる ^{あがな}贖いのゆえに、^{あた}価なしに ^ぎ義と ^{みと}認められるのです。

^{ひと}ローマ人への手紙 ^{てがみ}3章 ^{しょう}24節

◆メッセージ

「^{つみびと}罪人」と言えば、^い警察につかまった人や、^{けいさつ}刑務所に入っている人 ^{ひと}を思い浮かべませんか。ですから、^{せいしょ}聖書から「^{ひと}すべての人が ^{つみびと}罪人です。そして、^いあなたも ^{つみびと}罪人です」と言われると、びっくりしてしまいます。「私は、^{わる}そんな悪いことはしていません」と言い返したくなります。

^{せいしょ}聖書がいう ^{つみびと}罪人は、^{けいさつ}警察につかまる ^{つみびと}罪人とは違います。もともと人は ^{ひと}神さまと ^{むす}結びついて ^い生きるように造られているのに、^{つか}そうしないで、^{かみ}神さまから ^{はな}離れてしまう人 ^{ひと}を ^{つみびと}罪人と言います。そして ^{せいしょ}聖書は、^{ひと}すべての人が ^{かみ}そうだ ^しというのです。神さまを知っている人でさえ、^{ひと}時には ^{とき}神さまから ^{かみ}離れ、^{はな}神さまの ^{かみ}喜ばれないことをしてしまう ^いというのです。あなたは ^{じぶん}どうでしょうか。自分の好きなこと、自分の思 ^{おも}い通りにしないと ^き気が ^す済まないこと、うそ、ねたむ ^{ところ}心。私たちは、^{しょうじき}正直に ^{じぶん}自分を見つめれば、^{かみ}神さまから ^{はな}離れ、^{かみ}神さまの ^{よろこ}喜ばれないことをしてしまう ^{つみびと}罪人の ^{じぶん}自分に ^き気づくのではないのでしょうか。自分では ^{おも}よくないと思っ ^{たし}ていても、^{つみびと}どうすることもできません。確かに、^{つみびと}私たちは ^{つみびと}罪人です。

そんな私たちの身がわりにイエスさまが ^{じゅうじか}十字架についたのです。それで ^{かみ}神さまは ^{つみびと}私たちを、^{つみびと}罪人ではなく ^{ただ}正しい人と ^{ひと}見てくださると、^{せいしょ}聖書は ^{おし}教えています。

これは本当に ^{ほんとう}驚きの ^{おどろ}恵みです。私たちは、^{めぐ}何も ^{なに}していないのです。それなのに、イエスさまが ^{じゅうじか}してくださった ^{ただ}十字架によって、^{ひと}私たちを ^{みと}正しい人と ^{おし}認めてくださるのですから。

もしかしたら私たちは、^{かみ}また ^{はな}神さまから ^{しん}離れてしまうことがあるかもしれません。その ^{とき}時は、イエスさまの ^{じゅうじか}十字架によって ^{つみ}その ^{しん}罪も ^{しん}ゆるされていることを信じましょう。

◆ ^{いの}お祈り

「イエスさまの ^{じゅうじか}十字架によって、^{つみ}私の ^{かみ}罪が ^{かんしゃ}ゆるされていることに感謝します。」

